

令和6年度 第1回大野市行政改革戦略会議 会議録

日時：令和6年7月5日（金）午後7時～9時10分

場所：市役所 大会議室

<出席者> 大野市行政改革戦略会議委員 4名（欠席者なし）
行政経営部長、総務課参事、総務課長補佐、総務課員 4名

1 開会

2 委嘱状交付

市長から委員に委嘱状を交付

3 市長あいさつ

4 委員紹介

委員紹介後事務局紹介

5 座長及び副座長選任

座長：桑原委員 副座長：高橋委員

6 座長あいさつ

桑原座長あいさつ

7 議題

（1）大野市行政改革推進プラン2021【別冊】令和5年度実績等について

・大野市行政改革推進プラン2021【本体】でプランの目的、本会議の主旨について説明

・大野市行政改革推進プラン2021【別冊】の令和5年度実績等を報告

※議事要旨は別紙のとおり

8 その他

次回会議について

→ 10月頃を予定 中間進捗状況を報告

9 閉会

高橋副座長あいさつ

【主な意見】

議題（１）行政改革推進プラン【別冊】令和５年度実績

（取組 1-1）多様な情報発信手段の活用

○LINE の友だち数が増えているが、実際見ている数（既読数）は把握しているか。

○LINE 友だち数が増え、ホームページのアクセス数が減ったとのことだが、LINE 配信にはホームページへ誘導する URL を載せているはず。ホームページへのアクセスがパソコンからなのか携帯（LINE）からなのかを分析するとよいのでは。

○LINE の情報が詳細になるとホームページへアクセスしないかもしれない。ホームページのアクセス数を増やすことが一概によいとは言えない。LINE の活用により、情報が市民に行きわたっていると言えるのであればそれでもよいのでは。

○携帯の保有が低年齢化している。年齢、性別などの分析はできるのか。

⇒ 詳細な分析は、できないことはないと思うが、費用がかかる場合がある。分析できる範囲の情報で分析し、ホームページと LINE を使用する目的を一度検討したい。

（取組 1-2）目的とターゲットを設定した大野の魅力発信

○県外メディアでの掲載、放送はどのようなところに発信しているのか。

⇒ （令和５年度メディア発信実績を説明）

⇒ ほとんど無料での掲載となっている。費用をかけずに行っている。

○観光パンフレットの配布場所は。

⇒ （観光パンフレット配布先を説明）

○星空のパンフレットや紹介動画を市で保有していると思うが、借りることはできるのか。

⇒ 観光交流課で保有している。著作権のことがあるが、確認する。

○「天空の城」のブームが下火になっている。犬山の方面から定点カメラで撮影し、公式 YouTube などにて公開すると、新たに見に来る人が増えるのでは。

⇒ 「天空の城」のブームは再度くると予想している。定点カメラについては、電源の確保や民地の関係もあり費用の問題がある。そのような方法も含め、改めて検討していきたい。

○公式インスタグラムの目標値を上げているが、その根拠は。フォロワー数は 3,000 件まで増えるとよい。目標をクリアする策はあるのか。

⇒ 観光ビューローの目標である。根拠、対策は確認する。

（取組 2-1）市民が主体の人づくり・地域づくりの促進

○地域課題の取り組みは、未だ住民の理解が乏しい。目的が言いづらく若い方の参画が難しい。

⇒ 地域の課題解決は、人口減少、少子高齢化の問題を地区ごとに話し合うことが必要。

大野市も将来の人口推計では、生産年齢人口が大きく減少することが予想されている。
難しい課題だが、市も協力して取り組んでいく。

○五箇地区は、実際住んでいる方も少ない。取り残されていないか。

⇒ 五箇地区では、消防団が富田地区と統合するなど進めている。必要なものから検討を進めている。

（取組 2-5）（株）昇竜との連携

（取組 2-6）（一財）越前おおの農林楽舎との連携

○どちらも売り上げが増加しているが、実際は価格の値上げの影響もあるのでは。売上量では増加しているのか。

⇒ 確認する。

（取組 2-5）（株）昇竜との連携

○年間売上額は目標値に届いていないが、がんばっていると感じる。電気料も高騰する中、大変だががんばってほしい。

（取組 2-6）（一財）越前おおの農林楽舎との連携

○産地保証制度とは。

⇒ 大野市内で生産、収穫されたものであることを保証する制度。付加価値を高め、高く販売したりできる。基準をクリアした生産者が加入できる。

○本来は民間ですべきことか。市で行うことはすばらしい。

（取組 2-7）大野市土地開発公社との連携

○令和 7 年度までに富田産業団地の 100%売却は厳しいか。価格を落としていたりしているのか。

⇒ 元が安いので落としていない。

○働き手の問題もあるのでは。

⇒ 誘致の際に、働き手の確保の問題はあがってくる。誘致できれば、高校を卒業して市外へ出ていくことも減ると考えている。

⇒ 担当は、年間 100 以上の企業に対し誘致活動をしている。

（取組 2-9）他の自治体との交流、緊急時応援体制の構築

○能登半島の災害時、一般の方も一緒に応援に行くことはできなかったのか。

⇒ 能登半島の災害では、遠距離の場所であり、道路状況が悪く移動に時間がかかることや宿泊の問題もあり、一般のボランティアは被災地の方で受入がなかった。災害の状況によるが、美山の水害のように一般ボランティアを受け入れ、市で募集して行けることがあれば協力していただきたい。

○大野市に災害があった場合の体制は。

⇒ 防災計画で受入体制を示し、防災訓練など実施して災害に備えている。

（取組 3-3）マイナンバーカードの普及促進・利活用

○普及率は全国と比べてどうか。

⇒ 全国では 80% を切るくらい。大野市は全国平均より高い。現在、保険証や口座の紐づけにより申請が増えている。

（取組 3-5）リモート会議や動画配信の活用

○和泉地区の会議委員は、交通費も出ず、移動に時間もかかる。和泉地区の会議委員はリモートで会議できないか。

⇒ 和泉地域交流センターにリモート用の端末がある。それを活用できると考えるが、その周知が足りていないと考えられるため、周知に努める。

（取組 4-3）和泉診療所事業特別会計の健全運営

○中部縦貫自動車道が全線開通する令和 8 年 3 月以降、利用者の状況が変わる可能性がある。状況によっては、今後の施設のあり方を検討する必要があるのではないかと。

⇒ 今後必要に応じて検討していく。

（取組 4-6）公営企業会計の健全運営

○上水道有収率が下がっている原因は。

⇒ おそらく漏水等によるもの。管路の老朽化に伴い、多くの箇所での漏水の可能性があり。漏水調査の外部委託を検討している。

（取組 4-7）基金の確保と市債発行額の抑制

○財政調整基金残高は、目標値を超えているが、前年度から減となっている。原因は。

⇒ 今後の財政状況を考え、市債の発行額を抑制し、財政調整基金からの繰入れを行った。土地開発基金を廃止し、新たな基金を設置した。

（取組 4-9）行政事務のデジタル化推進

○AI の活用状況は。

⇒ 生成 AI は、昨年度に試行し、本年 4 月から活用している。3 か月の削減効果は、推計で 290 時間あった。

○主な活用方法は。

⇒ 文書の作成や校正。会議録作成支援システムで文字起こしたデータを AI で校正したりもしている。

（取組 4-10）行政事務のペーパーレス化

○デジタル化が進む中、例えば振込ハガキをやめることができないか。大幅な削減になるのでは。

⇒ 検討する。

（取組 4-13）職員の適正な定員管理と人員配置

○職員は減っているが、その分会計年度任用職員が増えているのでは。業務のスクラップを進める必要がある。

⇒ 会計年度任用職員は増えている。業務のスクラップは、今後の大きな課題のひとつである。この行政改革推進プランの取組のひとつとして今後検討する必要がある。

○人口減少と同様というわけではないが、人口が減っている分職員は減るもの。職員を減らすためにもシステム化を進めていくように。

（取組 4-15）市民と職員のパートナーシップの構築

○民生委員のなり手がいない。市の職員でもなれるようにできないか。

⇒ 民生委員は法律で定められたものであり、難しい。

○副業ができると思うが、副業している職員はいるのか。

⇒ 特殊な事情により副業している者はいない。地域の活動などで、ちょっとした報酬を受け取る場合は届出を提出している。